

令和 5年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292700028		
法人名	社会福祉法人水鏡会		
事業所名	グループホームひだまりの里		
所在地	〒039-0814 青森県三戸郡南部町垵渡字館2番地7		
自己評価作成日	令和 5年 10月 25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭菜園を行っており、職員・入居者が一緒に畑作りから、種植え、収穫を行い、収穫された野菜を、日々の献立に利用し、季節感を味わいながら楽しく食事をしている。 ・年間の行事を充実させ、個別的な買い物や外出に力を入れ、日々の生活の充実に努めている。 ・看護師が常勤となっているため、入居者の健康管理や、異常の早期発見ができる。また、終末期の看取りも行っているため、住み慣れた場所で自然な最期を迎える支援ができる。 ・3ユニットの行き来がしやすく、行事を大勢で楽しむことができる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を毎朝唱和し、実現にむけて取り組んでいます。各ユニットの処遇目標は、職員が見やすい場所に掲示し達成に向けて努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防のため地域との交流はまだ控えている状況です。地域貢献としては施設前の歩道のゴミ拾いや草取りを定期的に行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染予防対策をした上で地域に出向き、認知症講座等を開催しています。事業所内でも玄関先ではありますが個別の相談には対応し、支援方法等を助言したりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方や利用者家族、近隣の施設職員の参加し、いろいろな情報やアドバイスを頂いています。得たものはサービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉担当者と電話やメールで連絡・相談、又は、直接会って相談し問題解決に努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	感染予防対策を万全にした上で、身体拘束廃止委員が中心となり、勉強会を開催し知識の再習得に努めています。日中は玄関・非常口を施錠せず、自由に出入り可能な状態にしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員が中心となり、何が虐待行為にあたるのか再確認の為、定期的に勉強会を開催しています。職員間で不適切なケアを見かけた時にお互いが声掛けできる関係性の構築に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会を開催し、制度について学ぶ機会を設けています。必要とされる方には活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解約、改定に関する説明時は、十分な説明を行い、疑問にも丁寧な答え、不安のないよう努めています。退去時には必要な情報の提供に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様の声委員会を設置。定期的に入居者さまやご家族さまから意見や要望を聴取し、ケアに反映させています。利用者さまからは、会話や表情の中から思いを受け止め反映できるよう努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングや勉強会で職員の意見や提案を聞く機会を設けています。日常においてもその都度意見を聞き、問題の解決にむけて取り組む努力をしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情を把握し、希望に応じた勤務を可能にする努力をしています。資格手当・能力給・昇給やボーナスの支給があり、有給取得も気軽に取れる雰囲気作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の資格や力量を考慮し、スキルアップに向けて、研修の参加を進めています。また、必要な資格取得に向けての支援も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワーク会議に参加をし、情報の交換・共有をしています。電話での相談にも応じ、互いが向上できる関係性の構築に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や個人面談時には、本人の思いに耳を傾け、不安が少しでも緩和できるような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時には、ご家族さまの本人に対する思いや今までの苦難・不安を聴取し、サービス利用に関しての思いをくみ取るようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時、ご家族さまと本人の思い、要望に対し、課題を見極めたうえで施設でできることを丁寧に説明しています。また他のサービス利用も含めた対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の手伝いや食器拭きをしたり、洗濯物を畳んだり等本人の出来る事やしたい事を職員と一緒に会話を楽しみながら行っています。本人の出来る能力の維持にも努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族さまには、電話や毎月のお便り等で入居者さまの様子を伝えています。入居者さまの思いと一緒に考え、アドバイスもらい、協力していただく関係の構築に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防の為、積極的な外出支援は出来ずにいますが、少しずつ緩和し、ご家族さまとの外出支援などを行っています。。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手伝いや役割を通じて、利用者さま同士で支え合う関係が出来ています。施設内を自由に行き来することによって、馴染みの関係も築くことが出来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、ご家族さまの相談には随時対応しています。また、必要に応じて相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族さまや本人からの情報収集や日々の関わりから本人の希望、意向の把握に努めています。意思疎通が困難な方は日々の言動や表情などから思いをくみ取るようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族さまから生活歴などを聴取し把握に努めています。独居生活だった方の生活歴の把握が厳しいことがあり、本人から得た細かな情報はスタッフ間で共有し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活を記録している。バイタルサイン・食事・排泄・入浴・睡眠状況等から体調の変化を把握し、職員全員が共有出来るよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議でモニタリングを行い、本人・ご家族さまの意見や要望を反映した介護計画を作成しています。同じ内容で継続しがちなので現状にあったプランの作成に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録しています。情報を共有し、ケアや介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人からリフト車を借用し外出支援を行ったり、施設内でも出来る事を考え、お弁当の日や利用者の要望を反映した対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防対策を万全にした上で、運営推進会議や介護予防教室などを活用し地域の方々と意見交換を行い、入居者さまの生活に活かしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者さまやご家族さまが希望する医療機関を受診出来る支援を行っています。体調不良時は受診し適切な医療を受けられる体制を整えています。受診結果はご家族さまに報告し情報を共有しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しています。報告・相談する事で利用者が適切な処置、受診が受けられる体制を整えています。介護職員の安心感にも繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院に設置されている地域連携室と連絡を取り、早期退院に向けて協働しています。また、ご家族さまとも連絡を取り、病状の把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族さま・利用者さまの希望と、利用者さまにとって最良の方向について話し合いをもち、看取りケアを含めて安心して終末期が迎えられるよう支援しています。感染対策を行った上でのご家族さまの付き添い等も行っていきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の中に応急手当普及員の資格を持つ者が、定期的に応急手当の勉強会を開催しています。感染予防のため実技はせず、勉強会で知識の再確認を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼夜を想定し避難訓練を実施しています。発電機を使用し、停電を想定した訓練も行い、非常食等の備蓄も完備しています。緊急通報装置で業者が駆けつけるシステムを備えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体で、言葉使い等の対応の改善に力を入れており、朝の申し送りで唱和し再確認しています。排泄時や居室でくつろぐ場合はプライバシーを確保するよう配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい関係作りに努め、自ら希望・要望が言えるよう働きかけています。日々の生活の中でも、自分が選択・決定出来るような声掛けを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さまのペースに合わせ、入居者さまの訴え、希望を尊重するよう努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に一度の訪問理容を行っています。外出時や行事には、お化粧をし、おしゃれを楽しむ支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳・片づけ等、職員と一緒に進めています。リクエストに応じて急遽メニューを変えて提供したりしています。家庭菜園で採れた野菜も料理に取り入れています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を毎回チェックし把握しています。入居者さま個々の状態に配慮した食事形態で提供しています。本人が食べたい物にも出来る限り対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援をしています。就寝時洗浄剤を使用し、口腔内清潔に配慮しています。自力で行えている方は確認を行い、自力では行えない方には職員が介助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を促しています。オムツの使用を減らし、自立に向けた支援をしています。排泄パターンや習慣を把握できるよう努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫(繊維が多い食材や水分・乳酸菌など)や、運動・腹部マッサージ等、入居者にあつた予防に取り組んでいます。排泄困難時は看護師による摘便・浣腸等の処置も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴曜日を定めるなどの一定の日課を定めていますが、本人が希望すれば、出来る限り希望の日時に入浴出来るよう支援を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日課を決めて一日のリズムを整えるように努力しています。不眠傾向の方には足浴や温かい飲み物の提供・話し相手になる等、安心して休めるよう状況に応じた、支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用・副作用を明記したものをカルテに入れ把握しています。服薬時も二人で確認し、飲み終えるまで見守りしています。変化があつた時は、すぐに看護師に報告し指示をもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さまが今何が出来るか、何をしたいかを考え、一人ひとりの状態に合わせ、掃除・調理・裁縫・畑仕事など役割をこなしたり、ドライブ・買い物・アクティビティ等の気分転換も支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば買い物・散歩等の支援を出来る体勢はありますが、感染予防の為積極的には外出はせず、施設周囲の散歩やアクティビティに力を入れ楽しんで頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの金銭管理能力を考慮して、個別支援時など必要に応じて、お金が使えるよう、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時は、使用出来る様支援しています。年末の年賀状作成などの支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や掃除を細目に行い、不快にならないような配慮をしています。景色や会話を楽しめるようイスやソファを置きくつろげるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者さま同士が話を出来るような座席の配置や環境作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間があまり広くないため、既存の収納タンスを利用して頂いています。入居者さまが使い慣れたコップや箸等を持ってきて頂く等、安心できる工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力に応じて出来る限り、通常の日課は一通り行えるように支援しています。食事準備、後片付けから洗濯、掃除まで、職員と一緒に空間で行っています。		